

濱瀬 元彦 (Motohiko Hamase)



写真:須釜信一郎

プロフィール

70年代からジャズ・ベーシストとして活動、後にソロ活動に転じ6つのソロ・アルバムを出している。現在は「濱瀬元彦 E.L.F. Ensemble+ 菊地成孔」で音楽の新しい形を追求している。著作も多く、近著は『チャーリー・パーカーの技法 インプロヴィゼーションの構造分析』(岩波書店)。

ブラジル音楽について

音楽を感受すること、また、その感受力を高く深くしていくことが目的である点で音楽家もリスナーである。ただし、音楽家はその感受力を自分の作品に対して試され、その責任を自分が負うことになる。従って、どのような音楽に対してもそれ自体の美点を見出しうる能力は演奏技術よりもはるかに重要だ。実は音楽聴取の美的体験そのものが音楽の本質であり、それ故に音楽家は優れた音楽の存在についても無知であることは許されない。そんなわけで私も様々な音楽を探し求め聴く。しかし、かれこれ20年以上前から日常的に聴くのはほとんどがブラジル音楽だ。誤解なきよう補足するが私はブラジル音楽を情報として聴き、それを自分の音楽に取り入れるというスタンスはとらない。自身の音楽は自身のコンテクストを持っており、そこからしか進めないのだから。それにもかかわらず聴くのはブラジル音楽ばかりというのは何故だろうか。僅かな例外を除けばブラジル音楽だけが現在、「生きた」音楽を産み出し続けているからだと思う。誤解を恐れずに言うがジャズもポップスもすでに20年以上前から「死に体」だ。ブラジル音楽は現在、唯一と言って良いほどの優れた音楽の宝庫であり、そのため今日私はブラジル音楽を聴き「生きた」音楽を感受することができる。そして、「生きた」音楽とは何かという究極の問題へと目を開かれることになるのである。



③

ELIS REGINA & TOM JOBIM ELIS & TOM

(UICY 94153) 1974年

エリス・レジーナとしてはジョビン音楽に対する表現上の必要性から適正な抑制を効かせたことで他の作品にはない繊細な歌唱が実現した作品として、トム・ジョビンの作品としては最も強力な語り手を得た作品としてこれからも未永く聴き継がれていくであろう傑作。



⑦

CELSE FONSECA NATURAL

(COCB-53059) 2003年

現代MPBの旗手であるセルソ・フォンセカがボサノヴァを非常に洗練された切り口で現代的に体現した秀作。他になかなか見ることのできないスマートな音楽であり、このスマートさはこれからブラジル音楽を聴こうという人にとって非常によい入り口となるだろう。

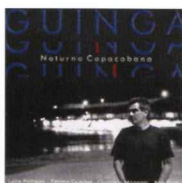


④

MÔNICA SALMASO - PAULO BELLINATI AFRO-SAMBAS

(Biscoito Fino BF-357) 1995年

パウロ・ベリナッチの圧倒的技量のギターを伴奏としてモニカ・サルマゾが全く新しい独自の歌唱スタイルを確立した作品。現在に至るブラジル音楽の美的、方法的な焦点はこの作品あたりからはっきりとしてきたように思う。現代ブラジル音楽のシリアスかつ甘美な局面を映し出す傑作である。

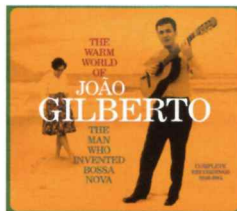


⑧

GUINGA NOTURNO COPACABANA

(Velas 270256) 2003年

是非とも聴いていただきたいのがギンガだ。彼の作品はすべて素晴らしいのだが、アレンジが豪華で録音もよく、誤解される要素が最も少ない作品としてこのアルバムがよいだろう。ブラジル以外には存在しない、しかもトビっきりと凄く音楽であることに驚かれること必至である。

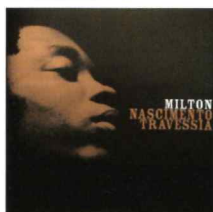


JOÃO GILBERTO WARM WORLD OF JOAO GILBERTO -COMPLETE RECORDINGS 1958-1961

(UBATUQUI WOR 20338) 1958~61年

①

これからブラジル音楽を聴こうという方にはまずは真正銘、本物のボサノヴァを聴いてもらうのが一番だ。1958年から61年に至るオデオンにおける『ジェガ・チ・サウダーチ』、『オ・アモール、オ・ソヒーゾ・イ・ア・フロール』、『ジョアン・ジルベルト』の3部作こそがボサノヴァのオリジンでありモダン・ブラジル音楽の誕生そのものなのだ。この3作は以前、EMIから『ジョアン・ジルベルトの伝説』として一枚のCDに収められて発売されていたが、何故かジョアン当人の逆鱗に触れて販売停止になり久しい。しかし、現在ではイタリア、スペインなどのレーベルから同一内容のものが発売されており、ここではイタリア盤を挙げたがスペイン盤でも結構。真の革新が行われる時、その実行者(ジョアン・ジルベルト)が抱いた確信と高揚は60年以上を経た現在でもこの音楽の新鮮さを衰えさせることはない。

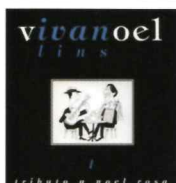


MILTON NASCIMENTO TRAVESSIA

(OMCX-1101) 1967年

②

ジャズにおけるビ・バップの創始者であるチャーリー・パーカーと現代ジャズの開祖、マイルス・デイヴィス、ジョン・コルトレーンとの関係はモダン・ブラジル音楽の創始者、ジョアン・ジルベルトとコンテンツラリー・ブラジル音楽の開祖としてのミルトン・ナシメントとの関係に相似している。そのようにミルトン・ナシメントの出現はボサノヴァ革命以後最大の音楽的事件であり、彼の影響は現在に至るまで途切れることなく続いているのである。その彼の最初の作品がこの『トラヴェシア』である。すでに47年も前の作品だが、今、聴いてなお本当に素晴らしい。これを聴いた後、『クルビ・ダ・エスキーナ』(1972)から『クルビ・ダ・エスキーナ2』(1978)に至る諸作品を聴いていただくことよいだろう。



⑤

IVAN LINS VIVA NOEL 1 TRIBUTU A NOEL ROSA

(Velas 270187) 1997年

イヴァン・リンスがボサノヴァ以前のサンバ・カンサウンの楽曲の素晴らしさをノエル・ホーザ作品を素材に聴かせる非常に優れた作品。ブレ・モダン音楽のよさが新しい意匠を凝らしたアレンジとイヴァンの素晴らしい歌によってわかりやすく伝わるブラジル音楽入門に最適の一枚。



⑨

MARIO ADNET O SAMBA VAI

(Biscoito Fino BF-336) 2009年

マリオ・アチネーの作品はどれも優れているが自身の曲を優しく最も情感濃く描いているこのアルバムを推したい。音楽の楽しさ美しさを肩肘張らずに求め、また自ら楽しむことで非常に高度な音楽を実現していることに聴く人はブラジル音楽の素晴らしさを感じ取るに違いない。

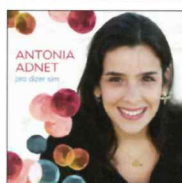


⑥

EDUARDO GUEDES & FÁTIMA GUEDES LUZES DA MESMA LUZ

(Dabliu 0102) 2001年

エドゥアルド・グチンの作品をグチン自身の手になる見事なオーケストレーションと心地良いサンバのリズムに乗せてファチマ・ゲチスが歌い上げた傑作。ファチマの歌が表現するところは欧米の音楽しか聴いたことのない人にとっては、想像を遥かに越えた驚異的なものとして映るであろう。



⑩

ANTONIA ADNET PRA DIZER SIM

(Universal 60253701309) 2012年

実はこれからブラジル音楽を聴く人のための10枚というテーマから最初に浮かんだのがこのマリオ・アチネーのお嬢さん、アントニアの作品である。これほど楽しく美しくしかも質の高い音楽はそうあるものではない。是非聴いていただきたい素晴らしい作品である。